

境町歴史民俗資料館だより

河岸町の歴史

香取神社の
石橋供養塔

（平将門と染谷川合戦）

2017.5

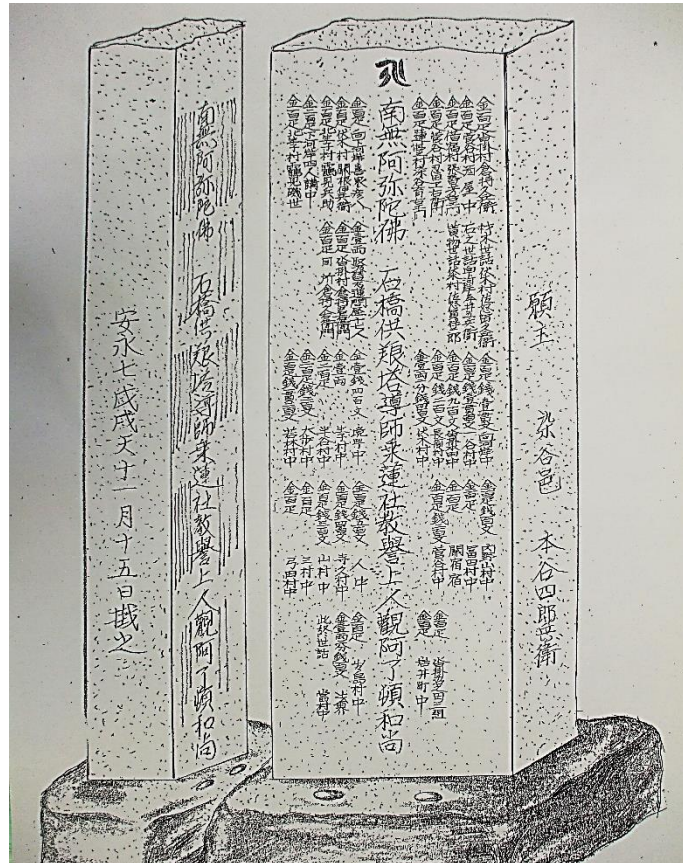
8

上の小橋と石橋供養塔

香取神社に残された平将門伝説



▲境町染谷の香取神社



▲石橋供養塔のスケッチ(境町 田村登士治氏)

境

町染谷の香取神社は染谷、下小橋、上小橋を流れる染谷川の東に位置し、武芸・武術の神様として知られる香取大明神が祀られています。その参道の登り口には高さ約一メートルの石橋供養塔(表紙写真)が立っています。供養塔とは、本来死者や先祖の供養のために建てるものですが、この石橋供養塔は染谷川に架かる小さな石橋「上の小橋」のために建てられたのです。

この石橋供養塔は、江戸時代後期にあたる安永七年(一七七八)

十一月七日に本谷四郎兵衛氏を願主として建造されたものです。一見すると何の変哲もない石碑のように見えますが、石碑の正面には「南無阿弥陀佛 石橋供養塔導師乘蓮社教普上人観阿了頓和尚」、右側面には「願主 染谷邑 本谷四郎兵衛」、左側面には「安永七戊戌十一月十五日建之」と刻まれています。また、正面の刻文には供養塔の建造にあたって奉納された浄財(寄付)の奉納者と村の名前、浄財の内容が刻まれており、これらの奉納者が染谷村から東の村々(現在の坂東市方面)に偏っていることがわかります。

今からおよそ二五〇年前の安永七年に、この供養塔が建てられた目的としては、染谷川に架かる上の橋を渡る人々の通行上の安全祈願と増水による染谷川の氾濫で上の橋が崩壊することのないよう橋そのものを守るために建造されたものと考えられます。

ところで、染谷村から東の地域の人々が、なぜこれほどたくさん浄財を募って上の小橋に祈願をかけたのでしょうか。

石

橋供養塔の建造と浄財の出所に関しては、

天慶二年(九四〇)に下総の猿島郡を拠点として起こった平将門の乱に起因していると考えられます。

当初は平氏一族の私闘から始まった戦闘が次第に拡大し、平将門は朝廷の地方統治機関である常陸・下野・上野の国府をつぎつぎと攻め落としてしまいました。

こうして東国の大半を占領し、新たな統治者として自らを「新皇」と称するようになった将門を朝敵(国賊)とみなした朝廷は、同じ東国の武士であった押領使(追討軍)の藤原秀郷・平貞盛らを将門軍の鎮圧に向かわせました。

平将門の乱について記している軍記物『将門記』しょうもんぎによれば、天慶三年二月十三日、藤原秀郷・平貞盛らの軍勢は、岩井に拠を構えていた平将門軍を攻撃するため二千九百人余りの大軍勢で染谷川の西側(境町方面)を占領しました。一方、将門軍は追討軍の不意の来襲にわずか四百余騎の軍勢で染谷川の東側(坂東市方面)に参陣しました。

将門は小高い香取の森の上から敵を攻撃し、染谷川に架けられていた「下の小橋」を破壊すること



▲現在、上の小橋は国道 354 線の一部として残されています



戦局を有利に変え、追討軍を迎え撃つたと記されています。しかし、その後間もなくして将門は追討軍に討ち取られ、将門軍も鎮圧されてしまいます。現在は坂東市岩井の国王神社に将門の御霊が祀られています。

それから約八〇〇年経った江戸時代、石橋供養塔の建造にあたって、上の小橋が境の川に架けられた橋であったにもかかわらず、旧岩井方面の村々からの浄財が多かった理由は、こうした平将門伝説が影響したものと推測されます。

下の小橋は香取大明神が祀られている地を流れる染谷川に架けられていました。東国の新皇となった将門が戦略上とはいえ、この下の小橋を破壊してしまつたという出来事は、神道を重んじる当時の人々にとつてまさに衝撃的な出来事だったのでしょう。

(境町歴史民俗資料館 野村正昭)

日光東街道と境河岸

さかいの街道をゆく



～第1回「さかい歴史散歩」を実施～

先月4月15日、境町歴史民俗資料館主催のボランティア活動「下総さかい河岸の会」学習会の一環として、資料館館長の解説の元、実際に境町内を歩いて散策する「さかい歴史散歩」を実施しました。

今回の歴史散歩では江戸と奥州を結ぶ日光東街道の宿場町・境河岸をテーマに境町役場から上仲町、下仲町、宮本町、本船町付近をコース(約2時間)として歩きました。また、午後は年三回行われている塚崎香取神社の獅子舞を見学し、境町の伝統文化に触れました。

ボランティアメンバーでもある参加者9名は終始和気あいあいとした様子で、今と昔、普段とは違う視点から見た境町の姿に思いを馳せました。



歴史散歩の様子



宮本町香取神社前



昼食は割烹旅館すずきやのお弁当

境町民俗資料館では現在、皆様に利用しやすい環境を整えるため、資料館の運営にかかわる運営ボランティア「下総さかい河岸の会」のメンバーを募集しています。

かつて宿場町として栄えた境町・境河岸の歴史を、町史編集委員、学芸員と一緒に楽しく学習しませんか。

詳しくは境町歴史民俗資料館までお気軽にお問い合わせください。(Tel. 0280-81-3353)

境町歴史民俗資料館

〒306-0431 茨城県猿島郡境町西泉田 1326-1 Tel.0280-81-3353 Fax.0280-81-3354

利用案内

[入館料] 無料 [休館日] ○毎週月曜日
[開館時間] 9:00 ~ 16:30 (月曜日は祝祭日の場合は開館し、翌火曜日が休館)
○年末年始(12/28 ~ 1/4)

交通案内

[自動車] 国道4号バイパス 塚崎交差点(境町)から 約4.5キロ 約10分
首都圏中央連絡自動車道 境古河ICから 約1.5キロ 約5分

[交通機関] JR宇都宮線 古河駅
東武スカイツリーライン(伊勢崎線) 東武動物公園駅) 下車
朝日バス 境車庫ゆき 約45分
終点 境車庫 下車 徒歩約15分